



青武台だより



No.201

平成26年4月3日発行

目 次

	ページ
1. 新年度を迎えて	
校長ほか 2~5	
専攻主任から 6	
第1学年学級担任から 7~8	
平成26年度行事予定表 9~10	
2. 青武台だより「第200号」特集	
青武台だより第200号によせて 12	
青武台だより第1号から第200号 13	
福井高専イベント from 青武台だより 14~15	
特集「教職員OB対談」 16~19	

新年度を迎えて



入学おめでとう

校長 松田 理

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

高専は中学卒業後の早い段階から5年一貫の専門教育を行うことを基本とする高等教育機関であり、大学工学系学部卒業と同程度の専門知識を有する創造性豊かな実践的技術者を育成することが最大の使命であります。従って、高専の教育課程では教養を身につけるため的一般科目と工学分野の専門科目を「くさび形」に傾斜配分し、学年が進むにつれて専門科目の時間数が増えるようにしていること。また、実験・実習、実技など体験型科目を重視し、大学工学系学部に比べほぼ倍以上の時間を割り振るなど、大きな特色を有しています。是非、君たちの夢の実現に向けて学業に励んで欲しいと思います。

さて、新入生の皆さんに本校での心構えについてお話をさせていただきます。

まずは、自学自習の習慣と自律の精神を身につけることです。皆さんは義務教育を終え、自らすすんで技術者の道を歩もうとして本校に入学したと思います。従って、皆さんは「生徒」ではなく、「学生」と呼ばれるのです。教育を受ける「生徒」ではなく、学問を修める「学生」なのです。この「修める」という言葉は、自らの主体性をもって身につけるという意味があり、特に強調したいところです。専門科目は言うに及ばず、語学や教養的科目、また地域の産業、歴史、文化など、能動的に学ぶことに最大の価値を置いて欲しいのです。

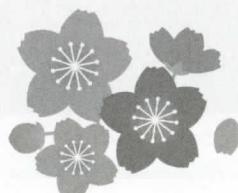
また、自分で考え自分で行動する自律の精神も必要です。何が正しいのか、何が間違っているのか。また、何をなすべきかを社会規範に立って考え、どんな状況においても責任ある行動をとることが求められます。福井高専生としての帰属意識とともに高

等教育を学ぶ自覚と誇りを持ってください。

第2に、個性を磨き、個性を尊重することです。個性とは、英語で言えばアイデンティティですが、独自性といつても良いでしょう。他人とは違う、その人にしかない性格・性質で、単なる表面的なものでなく、内面からにじみ出るものであります。これからは世界を視野に入れて活躍できるグローバル人材が求められますが、専門的に個性を磨き、才能を開花させて欲しいのです。そのことが技術革新に繋がり、日本の新しい産業創出にも貢献できると考えます。

同時に、他人の個性も尊重して欲しいのです。生まれも育ちも異なる人間が、1つのキャンパスや寮で勉強・生活するのです。当然、違った考え方、違った行動に出会うでしょう。そのときに、それぞれをお互いに認め合う心が大切なのです。また、専門性を身につけ自信がついてくると、時として独り善がりにおちいることも有り勝ちです。他人に学ぶところは多いので、謙虚さを忘れず自らを高めるよう努力してください。

本校では「優れた実践力と豊かな創造性を備え、国際社会で活躍できる技術者を養成する」を基本に学生教育を進めています。皆さんには、ものづくりの中核を担う技術者としての基礎を築き、誰とでも臆することなく技術的議論を展開できるように、また高い倫理観を持つ人間に育ってくれるよう期待しています。



新年度を迎えて

新年度を迎えて



道具箱

教務主事 上島 晃智

皆さん、紙を切るにはハサミやカッターが必要だということを当たり前のように思っているでしょうね。もしそれらの道具がなかったらどうでしょう。手で裂きますか、包丁で切れますか。いずれにせよとても苦労することは間違いないでしょう。

ところで、「生きてゆくため」にはどのような道具が必要でしょうか。それは、いつどのように手に入れるのでしょうか。人生を歩むための道具には、手の技、知識、コミュニケーション能力、そして志などなど様々なものがありますが、どれも、手に入れるのは学生時代が主であり一生かけて磨いてゆくという共通点があります。そして、それらの道具が混ざり合って「生きる知恵と力」に変わってゆくのだと思います。

ドラえもんの道具箱はみんなの知っている4次元ポケットです。そして、そこから出てくるいろいろな道具はみんなに夢を与え続けています。皆さん、ここで過ごす間に手に入れた道具達は、君たちひとりひとりの道具箱の中で出番を待ち、きっとこれから的人生にとって大きな力となるに違いありません。たとえそれを使う機会がなかったとしても、勝ち取った経験と自信は、人生を切り開く大きな支えになるはずですし、この様な機会を提供することが私たち教職員の務めだと信じています。

社会に巣立つ何年か後に、君たちの道具箱にはどんなものがどれくらい入っているのでしょうか。箱からはみ出るほど詰まっているのか、あるいは底が見えるほど寂しい状態か。

「そんな装備で大丈夫か?」との問い合わせに「大丈夫だ、問題ない!」と自信を持って答えていた君たちであつて欲しいと願っています。



新年度を迎えて —貝殻と毎日の生活

学年主事 藤田 克志

大西洋横断飛行に初めて成功したリンドバーグの夫人であるアン・モロウ・リンドバーグの『海からの贈物』(1955年)は、少し古い本ですが現代人必読の書ではないだろうか、と最近これを読んでそんなふうに感じています。新年度を迎えた学生諸君の生活への羅針盤にも成り得るのではないかでしょうか。

『海からの贈物』は、離島に滞在した時の海辺での思索という様相を持っていて、思考が貝殻に例えられます。ほら貝と訳されているChanneled Whelkは「質素な生活」を象徴しているといいます。現代文明にある煩雑さの問題解決の第一は「気を散らすことの幾つかを切り捨てる」とあるというのです。カタツムリの殻のように「小さな頂点に向って完全な螺旋を描いている」つめた貝は「ひとりでいるための時間」が大切であり「孤独を教えてくれる」といいます。わずかな時間でも静かな環境で考えることが大切であるといっています。人間関係についても貝殻で例えることが出来ます。鮮やかで美しい薄紅色の日の出貝は、人間同士が「初めのうちは純粋で、簡単であり、重荷になるものなどはない」関係であることに似ており、「決して美しいとは言えない」牡蠣は、それらの人間関係が成熟していくことに例えられます。さらに「半透明で、ギリシャの柱のように美しい溝が幾筋か付いている」たこぶねは、人間関係のさらに次の段階を示し、「人間の生活の断続性を理解」することが重要だといいます。しかし人間が断続性を得るのは難しいともいいます。

同書の最後の方では「島の教訓」をいくつか挙げていますが、わたしとしては「体と、知性と、精神の生活の間に平衡を保つこと」ということばが一番身に染みました。毎日の生活でバランスを取ることの大切さをいついて、学生諸君にも気を付けて欲しい所でもあるからです。

新年度を迎えて



新年度を迎えて

寮務主事 坪川武弘

新入生のみなさん入学おめでとうございます。在校生の皆さんもそれぞれの新年度頑張って下さい。また、本校の学生寮「青武寮」に新たに入寮する寮生の皆さんにも歓迎の言葉を述べたいと思います。

学生寮について少し述べます。学生寮は高専の敷地内にありますが、寮生以外の立ち入りができない特別な場所となっています。寮には二百数十名が日常生活をおくるのに必要な様々な施設が用意されています。学内の他の施設とは違った場所となっています。

学生寮は通学時間の面、先輩や同級生との交流の面など本当に恵まれています。その恵まれた条件を活かして勉学に励み、部活動などにも積極的に参加して高専全体を活気づけて欲しいと期待しています。ただ寮には、結構たくさんの厳しいルールがあります。清掃当番なども定期的にあります。自分の家にいるのとはかなり様子が違い、ある面きびしい規律を要求される生活です。このような寮生活を5年間おくった寮生は社会へ出ても立派に通用する人間に成長していると感じます。今年度の新入寮生もしっかり寮生活に慣れてそのような成長をとげることを強く期待しています。もちろん現在の寮生にも同じ事を求めています。

近年入寮を希望する人が増えてきているのですが、その希望全てには応えることができず大変心苦しく思っています。寮生活は他の学生さんからはなかなか見えないので、5月の寮祭期間だけは日中、寮祭の会場（寮食堂）に限り一般の参加を認めています。興味のある方はその機会に是非寮生活の一端を体験してみて下さい。なかなかユニークな企画がたくさんあります。



チームの一員になれるように

専攻科長 阿部孝弘

17期生の皆さん専攻科入学を歓迎します。皆さんは本科5年間で自分の得意とする技術分野、すなわち出身学科に関連する分野における知識と能力を身に付けてきました。専攻科ではその知識をさらに深化させるとともに、異なる技術分野の知識を積極的に吸収してください。

さて、皆さんはチームとグループの違いが判りますか？「野球チーム」をつくろうと言いますが、「野球グループ」をつくろうとはめったに言いません。野球チームは野球をするという目的のために人が集まり、投手、捕手、内野手、外野手が必要です。投手ばかりではチームにはなりません。つまり、同じ目的は持つけれども、役割が異なる人たちの集まりがチームと言えます。それに対して、グループは役割が同じ人たちの集まりをいくつかの集団に分けることと言えます。「グループに分ける」です。

野球のチームでは、全員が野球のルールをわかってプレーをしますが、捕手は投手のことを理解していないとチームとしてよい結果を生み出せません。内野手、外野手も同様だと思います。他のメンバーの役割を認識して、自分の能力を発揮することが大切です。

今はグローバルな多様化した社会であると言われています。多様化した社会で活躍して、世の中のために仕事をする技術者として必要なことは何でしょうか。それはチームの一員として仕事ができるようになることです。製品開発にしても、システム開発にしても、そしてまちづくりにしても、ひとつの工学分野の知識だけでは結果を出すことが難しくなっています。チームのメンバーには当然ながら外国の方も含まれる場合も増えてきます。自分とは異なる文化の中で活動してきた人とも仕事ができなければなりません。

チームの目的を認識し、他のメンバーの役割を理解し、協働して目的達成のために積極的に行動できるようになって下さい。

新年度を迎えて

学年はじめにあたって



図書館が新しくなりました！

図書館長 吉田三郎

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今年は開校50周年に向けて、図書館の改修も完成し、今までより明るく、一層利用しやすい環境となりました。新学期の早いうちに図書館利用のオリエンテーションもありますが、本の好きな人はそれを待つ必要はありません。今日からでも足を運んでみて下さい。

高専の図書館は中学や高校の図書館とは異なり、県内の大学や公立の図書館ともつながっています。たとえば読みたい書籍が福井市立図書館にあることがわかれれば、高専のカウンターで申し込むだけで、わざわざ福井市に出向かなくても取り寄せてもらえます。つまり、館内約11万冊の蔵書だけでなく、さらにその先まで情報検索が可能なのです。

また、各クラスの図書委員の参加のもとに、年2回のブックハンティングを実施し、委員たちが自ら読みたい書籍を購入する機会もあります。そのため、各学科の専門書や資格試験の勉強にも使える本、読みやすい洋書をそろえたコーナーの他に、やわらかめの「ラノベ」の類いまで学生の興味や関心に直結した本が書棚に並ぶことになります。それらも是非見て確かめて欲しいと思います。

閲覧室の他にも、パソコンコーナーやメディアコーナーでは、インターネット検索、DVDやBlu-rayソフトの鑑賞などもできるスペースもあります。こちらも一度見に来て下さい。これまでの映画ソフトのライブラリーにも発見があるかもしれません。

図書館には、読書の他にも試験勉強やレポート作成、さらには今回の改修で、グループ学習を行なえる部屋もできました。皆さんがあなたが図書館を広く、有意義に活用されることを期待しています。



学年始めにあたって

学生相談室長 中谷実伸

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

新学期を迎え、新入生の皆さんはもちろん、在校生の皆さんも、新しい環境になんとなく落ち着かず、戸惑いながら、また同時に期待に胸を膨らませているのではないかと思います。

在校生の皆さんには、これまでの高専生活を振り返ってみてください。充実していましたか。楽しく過ごせましたか。いろんな事があったと思います。思ったよりも長かったでしょうか。それともあつという間に感じられるほど、短かったでしょうか。

新入生のさんは、これから5年という期間を、この福井高専で過ごすことになります。この「5年間」という月日は、とても長く聞こえるかもしれません。しかし終わってみると、実はあつという間だったと思う方が多いのではないかと思います。

10代後半という、皆さんの成長にとってとても大切な時期を、充実した時間にしてもらいたい、先生方は皆さんそう思って、皆さんに接していらっしゃいます。

学生相談室もまた、皆さんに充実した高専生活を送るために、皆さんをサポートする機関の一つです。福利施設棟と呼ばれる、学生食堂がある建物。その2階に、学生相談室と保健室があります。相談員として学外から来られる専門のカウンセラーの先生と教員3名がいます。保健室には常駐の看護師さんが2名いらっしゃいます。

新しい環境で、不安やストレス、困ることもいっぱいあるでしょう。勉強のこと、友達のこと、家族のこと、自分自身のこと。なんでも結構です。いつでも気軽に学生相談室や保健室を尋ねてみてください。

新年度を迎えて

新入生を迎えて

専攻主任から



○ 積極性を大切に ○

生産システム工学専攻主任
芳賀正和

専攻科に入学されたみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんが過ごすことになる専攻科では、出身学科の異なる学生同士が、科学技術に関する問題に協同して取り組むことや、互いに刺激し合って切磋琢磨することが自然に身に付く環境になっています。自分とは違う専門分野を得意とする学生と触れ合う機会が増えることで、自分の専門分野について改めて認識し、本科で学んだ専門知識が自分の礎となることに気付くと思います。そして、専門知識をより究めたいという欲求が目覚めることでしょう。そのようなみなさんが、技術者・研究者としての自信を養うためのサポートをさせていただければと思っております。

専攻科では、みなさんがこれまでに身に付けた専門知識を発揮する場が、普段の講義やイベントの中に用意されています。また、日常的にクラスメートや専攻科2年生と研究に関する議論を重ねることでしょう。さらに、本科生の研究活動を指導することにもなると思います。様々な機会において、自分で考えて積極的に行動することを心掛け、活躍されることを期待しております。



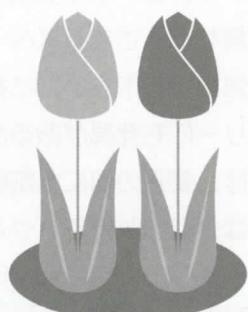
○ 今こそビジョンをもとう! ○

環境システム工学専攻主任
高山勝己

私は、シュバイツァーを尊敬しています。それは、彼が確固たる信念をもって人生を歩んだからです。

彼は30歳の時に医者になることを志しました。ある日、彼が机の上に置いてあった緑のパンフレットを目にしたのがきっかけでした。内容は、アフリカのコンゴでの宣教師を求めたものでした。その瞬間、彼は宣教に加えて、アフリカで医療奉仕することも決意しました。ところで彼は、もともと医者で、その能力をアフリカのために活用しようとしたのではありません。コンゴの人々に奉仕をする道を選ぼうと考えた時に医者になろうと決めたのです。医科の課程を修了したのが36歳、コンゴで医療活動を始めたのが38歳ですから、実に8年もかかっています。

“ビジョンを持たぬ者は彷徨う”といいます。皆さんは、将来の自分に何を思い描き、専攻科を進路に選択しましたか？ビジョンを持ってください。求めて下さい。そうすれば、きっとあなたに課せられた使命が与えられます。



新年度を迎えて

新入生を迎えて
学級担任から



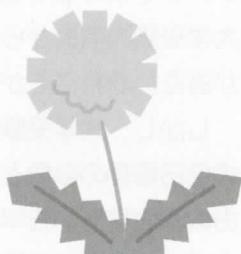
○こんなはずではなかった？○

F1クラス担任
森 芳周

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。希望を胸にこの福井高専の入学式にのぞんだことと思います。そして楽しい高専生活が始まるこことを期待しているのではないでしょか。しかし、それも長くは続かないことでしょう。

専攻科に進学した学生が5年間の高専生活を振り返って、「1年生のときが一番つらかった」と言っていたのを覚えています。1年生のうちは、時間割には専門科目は少なく、普通科の高校と似たような科目がほとんどです。しかも、数学などは中学と比べて極端に高度になっています。そして、オリエンテーション合宿、体育祭、寮生は寮祭と、4月から5月に大きな行事があります。クラブに入れば、その練習や大会も入ってきます。そうこうしているうちに、6月には中間試験、7月には期末試験です。

1年生のうちは新しい環境に体が慣れず、高専生活が厳しくつらいと感じることがあるかもしれません。大事なことは、疲れたときはしっかり休養を取ることです。そして、きっちり勉強をして試験にのぞむことです。



○福井高専で学んでもらいたいこと○

F2クラス担任
手 嶋 泰伸

入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から歓迎いたします。新入生の皆さんには、この福井高専で、ぜひ高度な知識や技能を身につけ、将来、社会で活躍してもらいたいと思います。皆さんの学びを、全力でサポートしていきます。

高等専門学校は、皆さん多くにとって、最終学歴となる場所です。つまり、皆さん多くは、この福井高専を卒業すると、就職することになります。社会は、皆さんのがここで身につけた高度な知識や技能を必要としているのです。しかし、私は、皆さんの知識や技能だけでなく、「皆さん自身」が必要とされるようになってもらいたいです。

のために、ぜひこの福井高専では、「想像力」を磨いていってください。「ここに落ちているゴミをそのままにしておくとどうなるか」、「～～と言ったら、相手はどんな気持ちになるか」。そのように「想像力」を働かせることで、自分がするべきことや、してはいけないことが見えてきます。こうしたことの見える人が、社会で本当に評価され、必要とされ、活躍できる人です。

皆さん、これから約5年間で大きく成長できるよう、一緒にがんばっていきましょう！

新年度を迎えて



○ 新入生の皆さんへ ○

F3クラス担任
青木 宏樹

福井工業高等専門学校ご入学おめでとうございます。新入生の皆さんには希望に満ちて本校に入学されたと思います。将来、技術者を目指す人や研究者を目指す人等、各自それぞれ将来の展望を持っているでしょう。是非これからもそれを大切に持ち続けてください。もちろん、様々なことを学ぶことで将来を目指すものが変わってもよいと思います。大切なことは常に目標を持ち続けることです。目標を持つとそれに向かって努力できるものですし、目標を達成するために今しなくてはならないことを考えることができます。また、生きがいや目標があることによって、張り合いのある生活が送れると思います。若いさんは、積極的に様々なことに取り組み、貴重な経験を積んでほしいと思います。それが、目標を達成するうえでの糧となるでしょう。そして、是非、皆さんには自身の目標を達成するために学びを豊かにしてほしいと思います。皆さんの目標を達成するためのお手伝いを本校は必ずできると思います。希望を持って学校生活を送ってください。

予習復習は欠かさず行い、分からぬ所は分からぬままにせず、課題は提出期限までに（初端から厳しく聞こえますが、）必ず出す習慣をつけて欲しいと思います。

本校は部活動が盛んに行われています。是非、興味ある部やサークルに入って欲しいと思います。（帰宅部は部活ではありませんよ）私自身、高校では空手道部に入っていました。部活動は本当にやっていてよかったと思っています。その当時、共に汗を流したメンバー及び先輩後輩とは今でも交流があり、会う度に昔話に花が咲きます。これからは多感な10代後半期。皆さん的人生に素敵な頁を、福井高専で書き足していってください。



○ 高専生であること ○

F5クラス担任
廣重 準四郎

まずは入学おめでとう。これから高専生となる諸君に、お祝いの言葉と共に大事なことを伝えておきたい。

高専は高校ではない、だから諸君は入学と同時に、生徒ではなく学生と呼ばれることになる。高専は大学ではない、だから諸君には校則が課され、それを守ることが求められる。つまり、諸君は、少なくとも1~3年生の低学年の間は、いわば「学生という名の高校生」なのだ。だから、高校生と同様に制服着用は義務づけられるし、アルバイトは規制される。では、中学生がしばしば憧れるという高専の自由なるものは存在しないのだろうか。いや、そうではない、すでに学生であるからこそその自由、すなわち、大学受験の苦難からの解放というとてつもない自由がある。それこそが高専の本当の自由なのだ。

しかし、大学受験からの自由には、勉学についての自己管理の必要という裏面がある。そのような自由の両面性をいち早く自覚して、諸君のすべてが歴とした高専生に成長してくれることを期待している。

○ 福井高専へようこそ ○

F4クラス担任
池田 昌弘

ご入学、おめでとうございます。中学を卒業して、今は福井高専での学生生活に夢と希望を膨らませているかと思います。私の場合、今思い返せば、入学時は（私は高専卒業生ではありませんが）、部活動や勉強を頑張ろうと決意し、自分なりに精一杯高校生活を送ってやろうと、（多分）思っていました。また、学習内容は中学の頃と比べ格段に難しく量も多いので、毎日の予習復習は本当に大変でした。高専での内容は、普通高校のものよりも難しいので、

新年度を迎えて

◆◆◆ 平成26年度 行事予定表（前期）◆◆◆

4月		5月		6月	
1 火	春季休業（～3日）	1 木	休講 体育祭（延期の場合は木曜日の短縮授業）	1 日	
2 水		2 金	（体育祭予備日）	2 月	前期中間試験
3 木	入寮式（10:30）新入寮生オリエンテーション（11:00）開寮（14:00）	3 土	憲法記念日	3 火	前期中間試験・前期中間まとめ（特別活動・卒研を含む）
4 金	入学式（10:00）専攻科オリエンテーション 2～5年HR（11:00）教育後援会総会（12:00）保護者懇談会（13:30）	4 日	みどりの日	4 水	
5 土		5 月	こどもの日	5 木	体育祭が5月2日実施の場合金曜日の授業
6 日		6 火	振替休日	6 金	休業（予備日）高校春季総体県予選 大学院研究室訪問（専攻科1年）
7 月	一斉健康診断（本科・専攻科）課題確認テスト	7 水		7 土	高校春季総体県予選
8 火	前期授業開始	8 木	授業終了後HR大掃除（キャンバスウォーク準備）	8 日	高校春季総体県予選
9 水		9 金	（キャンバスウォーク準備）	9 月	
10 木	専攻科特別研究中間発表会	10 土	キャンバスウォーク	10 火	
11 金	短縮授業 クラブ紹介	11 日		11 水	
12 土		12 月		12 木	
13 日		13 火		13 金	前期中間試験成績締切（16:00）
14 月		14 水		14 土	
15 火	新入生オリエンテーション合宿	15 木		15 日	
16 水	新入生オリエンテーション合宿	16 金		16 月	
17 木	新入生歓迎会	17 土	寮祭 舞鶴高専交歓試合	17 火	
18 金		18 日	寮祭	18 水	
19 土		19 月		19 木	
20 日		20 火		20 金	
21 月		21 水		21 土	専攻科学力選抜（前期）
22 火		22 木		22 日	
23 水		23 金		23 月	
24 木	開校記念日 放課後：校長表彰・校長訓示 学生総会	24 土	専攻科推薦選抜	24 火	
25 金		25 日		25 水	
26 土		26 月		26 木	壮行会
27 日		27 火	午前：授業（火曜日午後の授業） 午後：休講	27 金	
28 月		28 水	前期中間試験	28 土	北陸地区高専体育大会（ラグビー・野球）（富山高専）
29 火	昭和の日	29 木	前期中間試験・前期中間まとめ	29 日	
30 水	午前：火曜日の授業 午後：休講 体育祭準備 不合格科目の合格認定に関する計画書提出締切日	31 土		30 月	
備考		備考		備考	
7月		8月		9月	
1 火	在学生保護者対象授業参観	1 金	休業（キャンバスツアーアップ）	1 月	
2 水	在学生保護者対象授業参観	2 土	キャンバスツアーアップ	2 火	
3 木	在学生保護者対象授業参観	3 日		3 水	
4 金		4 月	専攻科期末試験	4 木	
5 土	北陸地区高専体育大会（富山）	5 火	専攻科期末試験	5 金	
6 日	北陸地区高専体育大会（富山）	6 水	専攻科期末試験	6 土	
7 月		7 木	専攻科期末試験	7 日	
8 火		8 金	専攻科期末試験	8 月	
9 水		9 土	夏季休業（～9/23） 閉寮（14:00）	9 火	
10 木		10 日		10 水	
11 金		11 月		11 木	
12 土	保護者会総会・保護者懇談会（学生寮）	12 火		12 金	
13 日		13 水		13 土	
14 月		14 木		14 日	
15 火		15 金		15 月	敬老の日
16 水		16 土		16 火	
17 木		17 日		17 水	
18 金		18 月		18 木	学力強化週間
19 土	編入学試験	19 火	全国高等専門学校体育大会	19 金	学力強化週間
20 日		20 水	全国高等専門学校体育大会	20 土	
21 月	海の日（予備日）	21 木	全国高等専門学校体育大会	21 日	開寮（10:00）
22 火		22 金	全国高等専門学校体育大会	22 月	学力強化週間
23 水	月曜日の授業	23 土	全国高等専門学校体育大会	23 火	秋分の日
24 木	本科期末試験（専攻科授業）	24 日	全国高等専門学校体育大会	24 水	本 科：後期授業開始 0限目 SHR 専攻科：後期授業開始 0限目 後期ガイダンス
25 金	本科期末試験（専攻科授業）	25 月	全国高等専門学校体育大会	25 木	
26 土		26 火	全国高等専門学校体育大会	26 金	
27 日		27 水	全国高等専門学校体育大会	27 土	
28 月	本科期末試験（専攻科授業）	28 木	全国高等専門学校体育大会	28 日	
29 火	本科期末試験（専攻科授業）	29 金	全国高等専門学校体育大会	29 月	
30 水	本科期末試験（専攻科授業）	30 土	全国高等専門学校体育大会	30 火	
31 木	本科期末試験 試験終了後HR大掃除 救命急救講習会 専攻科休講 専攻科オリエンテーション	31 日	全国高等専門学校体育大会	31 木	
備考		備考		備考	

新年度を迎えて

◆◆◆ 平成26年度 行事予定表（後期）◆◆◆

10月		11月		12月	
1 水		1 土	専攻科学力選抜（後期）・社会人特別選抜	1 月	後期中間試験
2 木	防災訓練	2 日		2 火	後期中間試験
3 金	（キャンバスリサーチ準備）	3 月	文化の日	3 水	後期中間試験・後期中間まとめ（特別活動・卒研を含む）
4 土	キャンバスリサーチ	4 火		4 木	
5 日		5 水	月曜日の授業	5 金	
6 月		6 木		6 土	
7 火		7 金		7 日	
8 水	休講 球技大会 保護者懇談会	8 土	全国高専デザインコンペティション（熊本高専）	8 月	
9 木	専攻科インターナシップ報告会	9 日	全国高専デザインコンペティション（熊本高専）	9 火	
10 金		10 月		10 水	
11 土		11 火	在学生保護者対象授業参観	11 木	
12 日	東海北陸地区高等専門学校ロボットコンテスト（金沢高専）	12 水	在学生保護者対象授業参観	12 金	
13 月	体育の日	13 木	午後：休講 クラシックコンサート（12:10授業終了）	13 土	
14 火		14 金		14 日	
15 水		15 土		15 月	
16 木	休講 午前：弁論大会 午後：高専祭準備・クリーン大作戦 専攻科生校外発表（北陸技術交流テクノフェア）（予定）	16 日		16 火	
17 金	休講 高専祭 専攻科生校外発表（北陸技術交流テクノフェア）（予定）	17 月		17 水	
18 土	高専祭 全国高等専門学校プログラミングコンテスト（一関高専）	18 火		18 木	
19 日	高専祭 全国高等専門学校プログラミングコンテスト（一関高専）	19 水		19 金	
20 月	休講・高専祭後始末 午後：校外実習発表会	20 木	午前休講・午後授業	20 土	
21 火	月曜日の授業	21 金		21 日	
22 水		22 土		22 月	
23 木		23 日	勤労感謝の日 全国高等専門学校ロボットコンテスト（国技館）	23 火	天皇誕生日
24 金		24 月	振替休日	24 水	
25 土	大学・大学院合同説明会	25 火		25 木	授業終了後HR大掃除
26 日		26 水	休業（予備日）	26 金	冬季休業（～1/5）
27 月	3年見学旅行	27 木	後期中間試験	27 土	閉寮（14:00）
28 火	3年見学旅行	28 金	後期中間試験・後期中間まとめ	28 日	
29 水	3年見学旅行	29 土		29 月	
30 木	3年見学旅行	30 日		30 火	
31 金	遠足（1、4年） 校外研修（2年） 交流会（5年） 3年見学旅行 専攻科交流会（1、2年）	備考		31 水	
1月		2月		3月	
1 木	元日	1 日		1 日	
2 金		2 月		2 月	本科5年卒研究発表 特別学習（低学年）
3 土		3 火		3 火	本科5年卒研究発表 5年HR達成度評価シート記入 特別学習（低学年）
4 曜	開寮（10:00）	4 水		4 水	休業
5 月		5 木	休業（予備日）	5 木	休業 キャリア教育セミナー（予備）
6 火	休業（予備日）	6 金	本科期末試験 専攻科1・2年期末試験	6 金	休業 キャリア教育セミナー（予定）
7 水	授業開始	7 土		7 土	閉寮（14:00）
8 木		8 日		8 日	
9 金		9 月	本科期末試験 専攻科1・2年期末試験	9 月	休業
10 土		10 火	本科期末試験 専攻科1年期末試験 専攻科2年特別研究	10 火	休業
11 日		11 水	建国記念の日	11 水	休業
12 月	成人の日	12 木	本科期末試験 専攻科1年期末試験 専攻科2年特別研究	12 木	休業
13 火		13 金	本科期末試験 午後：専攻科特別研究発表会	13 金	休業
14 水	月曜日の授業	14 土		14 土	
15 木	午前：国立高等専門学校学習到達度試験（3年） 休業（予備日）	15 曜	学力選抜検査日	15 曜	
16 金		16 月	休業	16 月	休業
17 土		17 火	本科期末試験	17 火	休業
18 曜	推薦選抜検査日	18 水	試験返却・解説（50分授業）	18 水	卒業・修了式
19 月		19 木	試験返却・解説（50分授業）	19 木	休業
20 火	不合格科目合格認定申請締切日	20 金	試験返却・解説（50分授業） 試験返却・解説終了後HR大掃除	20 金	休業
21 水		21 土		21 土	春分の日
22 木	校長表彰・校長講話 学生総会	22 曜		22 曜	
23 金		23 月	特別学習・試験返却・解説（50分授業）	23 月	学年末休業（～3/31）
24 土		24 火	特別学習・試験返却・解説（50分授業）	24 火	
25 曜		25 水	特別学習	25 水	
26 月		26 木	特別学習	26 木	
27 火		27 金	特別学習	27 金	
28 水		28 土		28 土	
29 木		備考		29 曜	
30 金				30 月	
31 土				31 火	
備考				備考	

青武台だより「第200号」特集

青武台だより 第200号特集

青武台だより「第200号」特集

青武台だより第200号によせて -記録すること、記憶すること、過去に学ぶこと-

学生主事 藤田克志

「青武台だより」No.1は、昭和44年6月10日に発行されています。昭和44年度は、昭和40年4月に開学した本校の完成年度で、10月には「校舎落成記念式典」が開催されていますし、翌年3月には第1回卒業証書授与式が執り行われています。福井高専が草創期から「内容充実期」に移行した、と強く意識されていた年度だったのでしょうか。「青武台だより」の発行も完成年度を意識したことではないかと想像します。それまでは、教育後援会が年3回「福井高専通信」というものを発行していたのですが、内藤初代校長は「青武台だより」No.1の冒頭で「学生と教職員との間の接触の場とするのみでなく、かねて父兄と学校との接触の場としたい」と考え、学校の広報を「青武台だより」に絞る、と発行の説明をしています。「青武台だより」は発行当初から学生と保護者と教職員のコミュニケーションの場であると意識されていたことがわかります。

No.1はB5版の大きさで、表紙を含めて白黒写真が3枚とビジュアル的には寂しいのですが、文章はかなり充実していて、全部で36ページあります。昭和44年度はNo.3までが発行され、翌45年度は6回発行されています。その後、年5回のペース(途中年3回の年もあり)で発行されています。No.99(平成元年7月)の表紙に初めてカラー写真が登場しています。No.104(平成2年7月)は、紙の質が上質なものになっています(表紙の写真は完成したばかりの電子情報工学科棟)。No.121(平成6年1月)からはA4版の大きさになっています(このときの表紙の写真はステップダンス大賞受賞のもの)。さらに、No.137(平成9年3月)からは、全ペー

ジカラー写真が採用されるようになります。そして、写真などが多用されるようになります。見やすさも意識している紙面作りになっています。コミュニケーションの質も伝える内容も変化してきたということなのでしょう。

NHKに「SWITCHインタビュー」という番組があります。この番組は異なる分野の人の対談をそれぞれの職場で行うということになっています。昨年の秋に、思想家・内田樹氏と能楽師・観世清和氏の対談がありました。このときの印象的なことばは観世清和氏のものです。観世氏は、能楽発祥からの650年とこれからの650年、つまり1300年の長さを考え、そこから現在の自分の立ち位置を考えている、という意味の発言をしているのです。そのような発想で自分の立場や存在意義を考えたことがなかったので本当に驚きました。

このことを踏まえると「青武台だより」の200号分から次の200号、つまりNo.400までを見渡す、ということになります。「青武台だより」の役割は、学生・保護者・教職員を繋ぐコミュニケーション手段のひとつとして、いかに記録し、記憶に残し、過去に学んでいく材料と出来るか、という所にあると考えています。そこで、今回は、学生主事補の川上由紀先生の企画・編集で、200号の特集として開学年度に本校に勤務しておられた松田政信先生と事務職の松井正隆氏にインタビューをし、その様子をまとめたものを掲載しています。わたしたちがこれから福井高専の50年を考えるとき何かのヒントが隠されているのではないかと思っています。

青武台だより「第200号」特集

青武台だより第1号から第200号

発行	主な記事		
昭和44年 6月10日	「青武台だより」の発刊によせて	校長	内藤 敏夫
昭和44年12月20日	校舎落成記念式・第5回高専祭特集号		
昭和45年 3月18日	第1回卒業証書授与式特集号		
昭和45年 5月11日	昭和45年度入学式特集号		
昭和45年12月24日	第6回高専祭特集号 テーマ「目覚める高専生」		
昭和46年 1月25日	新任のことば 退任のことば	第2代校長 初代校長	木村 賀一 内藤 敏夫
昭和46年 1月25日	新任のことば	第2代校長	木村 賀一
昭和48年 1月27日	高専制度10年の歩みに思う	事務部長	田中 敬次
昭和48年 3月19日	第4回卒業証書授与式		
昭和48年 7月 2日	第9回全国高等専門学校体育大会について	校長	木村 賀一
昭和49年10月30日	第9回全国高等専門学校体育大会を顧みて	競技部長	佐上 清
昭和51年10月 1日	昭和51年度の就職活動並びに情勢について	就職指導委員長	竹下 俊男
昭和52年 7月 5日	教育課程はどう改訂されたか	教務主事	芳谷 大和
昭和53年 4月 8日	新入生を迎えて 退任のことば	第3代校長 第2代校長	大谷 泰之 木村 賀一
昭和53年 7月 1日	校長に就任して	校長	大谷 泰之
昭和54年 7月 2日	夏休みを前にして	学生主事	義江 修二
昭和55年10月 9日	昭和55年度の就職情勢	就職指導委員長	江村 一男
昭和57年10月 1日	校内美化について	学生主事	粟野 志夫
昭和59年 7月 5日	夏期工場実習について	教務主事	高岡 大
昭和61年 1月10日	創立20周年記念講演	京都工芸繊維大学長	福井 謙一
昭和61年 4月 8日	新任のことば 新任のことば	第3代校長 第4代校長	大谷 泰之 丹羽 義次
昭和61年 7月 1日	校長に就任して	校長	丹羽 義次
昭和62年10月 1日	本年度の就職状況	就職指導委員長	柴田 明
平成元年10月 2日	工場見学旅行について	教務主事	小西 昭夫
平成 2年 7月 2日	情報工学科竣工	電子情報工学科主任	澤井 達夫
平成 3年 7月 1日	夏期校外実習について	教務主事	田中 貞行
平成 3年10月 1日	北陸地区大会を振り返って ー総合優勝ー	体育主任	島田 茂
平成 4年 3月18日	退官するにあたって	第4代校長	丹羽 義次
平成 4年 4月 8日	新入生を迎えて	第5代校長	田中 茂利
平成 5年10月 1日	本年度の就職状況	就職指導委員長	阪口 健一
平成 6年 4月 8日	新入生を迎えて	校長	田中 茂利
平成 7年10月20日	青武台だより福井高専30年の回顧	青武台だより編集委員	
平成 7年12月18日	創立30周年記念事業を終えて	記念事業実行委員会副委員長 教務主事	松井 修一
平成 9年 3月18日	退官にあたって	第5代校長	田中 茂利
平成 9年 4月 8日	21世紀の旗手へ	第6代校長	生越 久晴
平成 9年 7月 6日	本校に着任して	校長	生越 久晴
平成10年 7月 7日	新入生オリエンテーション合宿研修	学生主事補	佐藤 匠
平成11年10月20日	専攻科棟の竣工を祝して	校長	生越 久晴
平成12年 6月30日	新入生オリエンテーション合宿研修	学生主事	太田 泰雄
平成13年10月17日	第36回北陸地区高専体育大会について	体育主任	島田 茂
平成14年10月16日	第160回 第9回全国高等専門学校将棋大会	環境都市工学科	前島 正彦
平成15年 7月 1日	本校に着任して	第7代校長	駒井謙治郎
平成16年12月10日	高等専門学校体育大会		
平成17年12月 9日	創立40周年を振り返り 学生諸君に望むこと	校長	駒井謙治郎
平成18年12月 8日	北陸地区高等専門学校体育大会、全国高等専門学校体育大会	体育主任	島田 茂
平成19年 7月11日	イノベーションを興す人材育成に向けた本校における新たな取り組み	校長	駒井謙治郎
平成20年 7月22日	本校を巡る動き	第8代校長	池田 大祐
平成20年12月 5日	福井高専本館棟等改修工事について	校長	池田 大祐
平成21年12月16日	「女子中学生の高専進学への理解増進と高ブランド戦略」事業の推進について	企画室長	太田 泰雄
平成21年 3月 9日	門出を祝す	校長	池田 大祐
平成22年 3月18日	高い専門能力と幅広い教養を！	校長	池田 大祐
平成22年12月16日	女子制服の改定並びに制服の着用指導について	福井工業高等専門学校	
平成23年 5月10日	学年はじめにあたって「結果の平等から機会の平等へ」	教務主事	上島 晃智
平成23年12月15日	女子中学生と保護者のための体験学習	企画室長	田中嘉津彦
平成24年 7月30日	掌の機能 ー今年の福井高専ー	学生主事	藤田 克志
平成24年12月17日	専攻科という選択	専攻科長	阿部 孝弘
平成25年 4月 3日	入学おめでとう	第9代校長	松田 理
平成25年 7月29日	これからの中等教育	校長	松田 理
平成25年12月12日	45年前の文章、マイナスからプラスへ	学生主事	藤田 克志

青武台だより「第200号」特集

当時の記事を
振り返る

福井高専イベント

体育祭



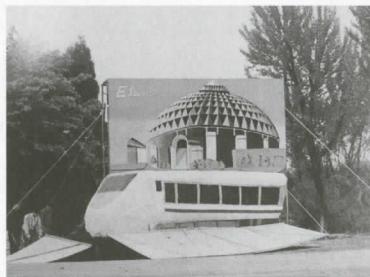
デコレ(No.99/H1)



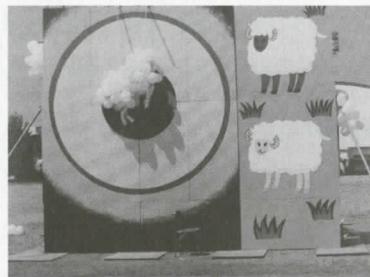
デコレ(No.119/H5)



デコレ(No.114/H4)



デコレ(No.129/H7)



デコレ(No.143/H10)

その他



56豪雪 雪下ろし(No.57/S56)



マラソン大会(No.66/S58)

青武台だより「第200号」特集

from 青武台だより

高専祭



仮装パレード(No.2/S44)



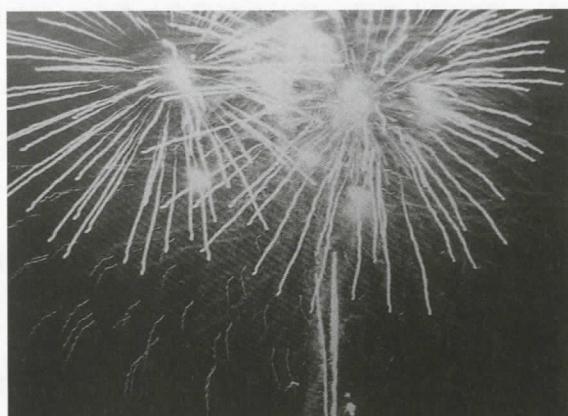
市中パレード(No.29/S50)



女子学生みこし(No.106/H3)



もちつき(No.153/H13)



花火大会(No.153/H13)



壁画コンテスト(No.161/H15)

青武台だより「第200号」特集

特集 「教職員OB対談」

—青武台だより第200号によせて— 松田 政信 先生

—松田先生は福井高専開校年に赴任したとお聞きしました。当時の高専はどのような雰囲気でしたか？

私は昭和40年4月に福井高専の教員として採用されました。開校年ということで慌ただしく、実際には学校が始まる1か月前から前倒して入学式や授業・実験の準備をしていました。また、初年度は校舎が建設中であり、仮校舎で授業等を行っていました。学校祭のときのものですが、仮校舎の写っている写真があります（写真1）。開校当初は機械工学科・電気工学科・工業化学科の全部で3学科しかなく、教員数も9名からのスタートでした。

昭和43年に「2001年宇宙の旅」という映画がありました。コンピュータがしゃべったり考えたりして最後に死んでしまうという内容でした。当時はあと35年でこれを超えることが出来るか？追いつくことができるか？という雰囲気であり、頑張らないと！と思いました。小学生や中学生の頃は鉄腕アトムをよく読んでいましたが、今思うとそれが工学分野へ進むきっかけになっていたのかもしれません。将来（21世紀）はこうなるのだろうかという期待があり、みんながそれを夢見ていて、実現のために頑張らないと！と考えていました。当時はそういう意味で勢いがあったと思います。



写真1：第一回学校祭

—当時は高専祭ではなく、学校祭だったのですね。現在の高専イベントについてはどう思われますか？

今は弁論大会があるのがいいですね。学生はどうしても書くこと、話すことが苦手です。5年次の卒業研究は本当に大変。たとえば、同じ文の中で同じ言葉が何度もでてきたり、はじめとおわりとで内容が矛盾していました…。当時、論文は手書きでしたが、ワープロを使うようになってから文章を書くのが下手になりました。高専はプレゼンの機会が多くあるのが良いところだと思います。自分の考えていることをうまく表現できるようにしましょう。それができないと、考えもうまくまとまりません。

—福井高専にいてよかったことを教えてください。

担任をもつたんですね。合計で4回担任を持ちました。良いことも悪いこともあります。3年間担任を持ち、40人を卒業まで育てていくというのが高専らしさだと思います。

学生は3年から4年にかけてガラッと変わります。大人への成長ですね。4、5年生になると対等に大人として会話ができるようになるのが面白いです。もちろん成績も5年あればものすごく変化します。下がる学生もいれば上がる学生も。5年間あるからこそ、しっかり面倒をみて芽が出ることころまで見られる。そこがいいところです。

担任を持つにあたって、青年心理学の大切さを感じました。学生は大人へ変わる思春期であり、精神的に不安定な時期です。また、進路のこともあります。言葉の暴力ではないですが、余計なひと言を言わないように気付けていました。

全体的にまとめると、担任が4回できて本当に良かったです。本当はあと1、2回持ちたかったですが。

—高専に赴任して大変だったことを教えてください。

赴任する前までは、高専では研究ができると聞いていました。しかし、当初は学校の目標が定まらず、研

青武台だより「第200号」特集

究機関なのか教育機関のかがはっきりとしていませんでした。法的には大学や短大の目的として「研究」が明文化されていますが、高専の場合はされていません。そのため、学内では全体的に「No 研究」という雰囲気でした。教員は勉強や研究をやらせてもらえないのに、昇格基準には研究成果が必要だという矛盾した状態でした。そういう状況に対して、第一線の研究をしていないと、先端を走っていないと、高等教育機関の学校教員として責任をもってやれないと初年度から思っていました。教育に関しても、自分が学生に教える内容は自分の研究を基盤にやるべきであり、教科書も自分で作るべきだと思っています。でないと、次の世代が育たないでしょう。

こういった状況の中、設備がないながらも、夜中まで頑張って勉強や研究をしました。寮監をやることで通勤時間を削り、勉強の時間に充てました。学校からは電気代や戸締りの関係で夜までいることを怒られたこともあります。学会発表も簡単には許されず、許可をもらうためにとても苦労しました。もちろん旅費はもらえず、自費出張です。このような「No 研究！」という体制を崩すのに30年ほどかかりました。研究をしたいという人は皆大変苦労したと思います。

一部活の顧問はされていましたか？

野球部、自動車部、模型部、剣道部、陸上部、etc… たくさんの部活の顧問をしました。なかでも野球部、自動車部、模型部は私が立ち上げた部活です。顧問はいろいろな学科の学生と学校を離れて交流できるのがいいところです。いまでもマラソン大会に参加したりしているのですが、部活の顧問をしていたからかもしれませんね。

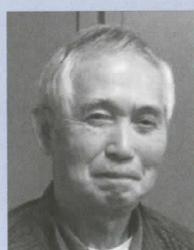
野球部を作ったときは、学生からやりたいといわれて立ち上げました。当初は、ガラスが割れるという理由で、学校側から「ボールとバットは使うな」と言されました。そのため、体力作りしかできませんでした。しかし、学生はやる気があったため、遠征へ行って練習試合をしました。もちろんこれまで練習ができなかつたため、ぼろぼろにやられました。けれど、彼らはとても必死にやっていました。やはり1期生は学校を作っていくんだ！という意気込みがありました。野球そのものよりも人に負けたくない！という気持ちが強かったように思います。実は高野連に入れてもらえるように交渉をしたのも私です。初めの回答はもちろん「No」でしたが、学生のやる気に負けじと何度も交渉に行き、昭和44年から無事入ることができました。

—最後に学生へのメッセージをおねがいします。

昨年から学寮で学生指導員をしています。日曜日なので学生はあまりいませんが、今の学生は何に興味があり、何を悩んでいるのかを見ています。昔はすべてが新しいという世の中でしたが、今は安定した世の中です。昔と今とで学生がどのように違うのかとても興味があります。寮の巡回で学生と交流するのが楽しみで、1日2回でいいところを3回巡回しています(笑)。寮生諸君は、私を見かけたら是非声をかけてください。



写真2:当時の野球部



松田 政信 先生

昭和40年4月 福井高専 電気工学科 採用

平成15年3月 まで在籍

現在は学寮で学生指導員として従事している。

青武台だより「第200号」特集

特集「教職員OB対談」

-青武台だより第200号によせて- 松井 正隆さん

—松井さんは事務職員として長年勤めていたとお聞きしました。事務職員となったきっかけを教えてください。

実は高校卒業後は繊維会社で働いていたのですが、入社して1ヶ月程で火災にあり、転職を余儀なくされました。小さいころから書道をしていて、ずっと続けていきたいという思いがありましたが、民間企業ではなかなか難しいと思い、この機に公務員になろうと決心しました。県庁や学校など様々な機関へ就職活動にいきましたが、環境としては学校がいいなと思い、福井高専へ来ることになりました。

私が採用されたのは昭和40年4月で、教務係の事務職員として採用されました。当時の事務に学生係はなく、教務係、会計係、庶務係という構成でした。学校で勤めるからには学生へのサービスが一番だろうと思い、教務を志望しました。そんなわけで、初年度から6年間は教務係で楽しく働かせてもらいました。

—福井高専についてよかったですを教えてください。

開校当初からいたため、福井高専として一からやっていこう！という全体的に活気がある時代を体験してきました。学生と直接触れ合う時間がずいぶんあり、学生のために仕事ができてよかったですなと思っています。

昭和40年から約25年間は高専で、その後5年は福井大学へ、そして平成7年からはまた高専へ戻ってきました。36年働いていて7割以上は学生向けの仕事をしています。総務課と学生課は種類が違う仕事で、どちらも経験していますが、学生課の方はやはり学生と触れ合えるのが楽しかったです。書道の方はいまも続けていて、展覧会もしています。今考えると、初めに考えていた書道も学生向けの仕事もずっと続けることができてよかったですなと思います。

—当時の福井高専について教えてください。

福井高専は当時とても人気のある学校でした。特に1期生から3期生のときは倍率がとても高かったんです。1期生は定員が3学科で120人だったのに対して、1300人の応募があり、倍率は約11倍でした。当時推薦はなくすべて学力選抜で、試験会場は福井大学でした。2期生のときは志望者808人でした。受験者数が多く、入試事務はとても大変でしたが、思い出深いものがあります。

校舎は開校2年目から今の場所に建てられました。図面が当時の福井高専通信という冊子に載っています（写真1）。当時は学生も教職員も皆で寮へ昼ごはんをたべに行っていました。

当時の寮は部屋数が10もなかったと思います。教員も事務職員も巡回を担当していました。学習室もあり、学生はそこで勉強していました。色々な先生方も言っていましたが、宿直の日はまったく寝ることができず、次

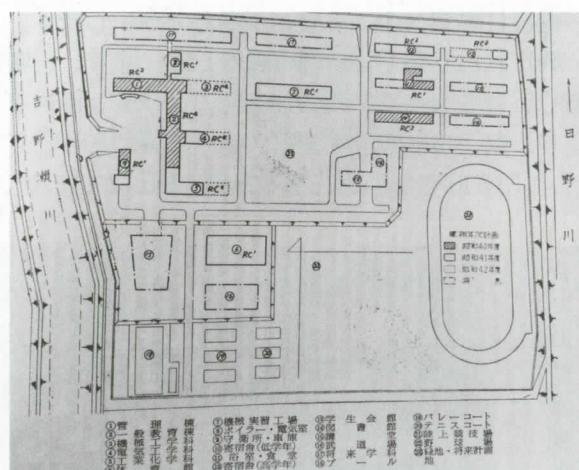


写真1：校舎配置図

青武台だより「第200号」特集

の日は疲れでぐったりしていました。今もそうかもしれません、寮の仕事も大変でした。

一当時の高専イベントについて教えてください。

当時は3、4歳しか違わない学生たちと、一緒に行事をするのがとても楽しかったです。特に覚えているイベントは、「矢良巣岳（やらすだけ）遠足」です。武生のみどり町（現越前市平和町？）から浜の方へ20キロ歩くイベントです。皆このイベントの後はヘトヘトで帰ってきたものです。時期は春で4月から5月でした。教職員も学生も全員参加で、事務職員も参加可能な人は参加していました。山を登り、日本海がみえる景色のいいところまで行き、ごはんを食べて帰ってきました。これはとても印象に残っています。そのほかにも最初の年に彦根城へ行ったのも覚えています（写真2）。



写真2：彦根城遠足

一高専の学生の印象はどうでしたか？

はじめは学生と年齢が近かったので、弟のような感覚でした。自分の考えをちゃんと持っている学生と持っていない学生とで、ずいぶん差がでていたように思います。入学したばかりの年代でそういうことを考へるのは大変ですが、一番大切なことだと思います。福井高専ではそういうことをしっかり考へている子が結構いて、とくに1期生はよく遊びよく勉強していた印象です。

学生の先生への呼び方には抵抗がありました。というのは、学生が先生に対して「〇〇先生」ではなく「〇〇さん」と呼ぶように変わっていました。これにはとても違和感がありました。でもよくよく考へると、先生もそれほど気にしてない様子でしたし、大事なときだけちゃんと「先生」と呼べればいいのかもしれないなといまは思っています。

一最後に学生へのメッセージをおねがいします。

もうすぐ70歳になるけれど、人生に正解や不正解はないと思っています。自分が社会にどう役立つかを考えていれば大丈夫です。勉強だけではないけれど、自分がどう役立つていこうかというのを考へていれば、自ずと勉強しよう！となると思います。これは時代が変わっても変わらないところです。私もそうですが、時間があるとどうしても時間を無駄にしてしまいますが、よく考へて頑張ってください。



松井 正隆さん

昭和40年 福井高専 事務部 教務係 採用

昭和 3年 福井大学 事務部 施設係 へ

平成 7年 福井高専 へ

現在は月に2回、教職員向けに書道指導を行っている。

平成25年度卒業式 及び 学生表彰風景



マーク 本校ロゴマーク

平成26年4月3日発行 ☆福井工業高等専門学校 ☆〒916-8507 鯖江市下司町 TEL 0778-62-1111